

麓・老神地区の『復興まちづくりのイメージ案』について～第3回懇談会の意見概要②～

黄色網掛け箇所が第3回懇談会の参加者の意見です。（※決まった内容や事実確認をした内容ではありません）

麓・老神地区 復興まちづくりのイメージ(案)

【避難路の整備】【安全な避難場所の確保】

- ・胸川の西側は公共施設、東側は寺社と自主避難所に関わる協定を締結する。

【防災意識の醸成、体制の強化】

- ・災害時の役員の負担軽減のためにも、自主防災組織の組織強化、実践的な避難訓練の実施、女性部の活動強化を図る。

【人吉城址周辺の活性化】

- ・市内外の住民が相良 700 年の歴史、球磨村との共生の歴史を学ぶ場所として、歴史資料館をガイダンスセンターとして再利用する。

【コミュニティの再生】

- ・田町の旧商店街に位置する古民家などの再生（イノベーション）を図り、若い住民の転入を促す。

避難場所・避難所	土砂災害の危険区域
● 指定緊急避難場所	土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）
● 指定避難所	土砂災害警戒区域（イエローゾーン）
○ 自主避難所	地すべり調査予定
○ 福祉避難所	急傾斜地調査予定
○ 避難場所（高台）	土石流調査予定
	その他
	農用地区域

避難路（案）

- 現況が4m以上
- - - 現況が4m未満



◇お問い合わせ◇

人吉市役所 復興局 復興支援課
〒868-8601 熊本県人吉市下城本町 1578-1
Tel:0966-22-2111(内線：8893) Fax:0966-24-7869
E-mail:fukkousien@hitoyoshi.kumamoto.jp

これらに関する情報は、市ホームページにも掲載しています。ホームページをご覧になれない人はお問い合わせください。

地区別懇談会だより

Vol.2

麓・老神地区

～みんなで取り組む、人吉市の復興まちづくり～

『地区別懇談会（第3回）』を開催しました

甚大な被害や治水対策による影響が大きいなど、地区でまとまって問題解決に取り組む必要性の高い地区を「重点地区」として位置づけ、それぞれの地区ごとに「地区別懇談会」で話し合いを進めています。

麓・老神地区の対象地区は、麓町、老神町、新町、田町、南寺町です。

◆第3回地区別懇談会

- 1 地区の復興まちづくりに向けての参考資料の説明
 - ・地区別懇談会の振り返りと情報提供
 - ・懇談会意見を踏まえた復興まちづくりの方向案、イメージ案と参考事例について
- 2 地区ごとの話し合いと全体共有
 - ・復興まちづくりの方向案（課題、取組方針、具体的な取組み案）について
 - ・復興まちづくりのイメージ案について
- 3 今後の進め方と次回日程の調整



6月15日（火）18時から、人吉市立東小学校体育館で開催しました。
（参加人数：56名（内 麓・老神地区住民4名））

懇談会の進め方について ～復興まちづくり計画の策定に向けて～

地区別懇談会での検討をもとに、具体的な復興まちづくりの取組を「復興まちづくり計画」に反映していきます。

◆地区別懇談会の参加方法

- ・対象地区にお住まいの方や勤務されている方など、どなたでも参加できます。
- ※可能な範囲で、継続的な話し合いに参加いただけます。
- ・参加申込は随時受け付けておりますので、本紙面末尾の復興支援課までお問合せください。
- 多くの方のご参加をお待ちしております。

◆地区別懇談会の進め方

- ・7～9月の間に、概ね月1回（3～4回程度）の開催を予定しています。

次回の開催予定：第4回 7月26日（月）18時00分より

次回のテーマ予定：復興まちづくりの具体的なイメージや手法案について 会場：人吉市立東小学校体育館

参加
募集中



◇復興まちづくり計画とは

- ・復興計画を実現するために取り組むべき内容を検討・整理したものです。
- ・特に被害の大きい特定地域（重点地区）などを対象に、各地域の具体的な計画づくりを行います。
- ・住民主役の計画づくり（策定主体は主に住民）に対して、行政が支援し、計画策定をめざします。
- ・計画期間は、令和4～9年度の概ね6年間。（令和3年度からの一部実施も想定）

□は方向案の柱、赤字は事務局側での記載事項です。 黄色網掛け箇所が第3回地区別懇談会における参加者の意見です。（※決まった内容や事実確認をした内容ではありません）

意見集約のキーワード （復興計画の3つの柱）	地区の主な課題 （地区の復興まちづくりに向けた主な課題）	取組み方針 （課題解決のための取組み方針の柱）	具体的取組み(案) ※実現化に向け、今後検討が必要
①被災者のくらし再建とコミュニティの再生 【住まい再建】 【コミュニティ再生】	☐ 浸水した家屋の片付け（公費解体） ・公費解体の順番待ちの状況。 ・地区内で被害の大きかった新町の今後の心配。 ☐ 地域の高齢化、及び空洞化 ・高齢者が増えて、住民同士の付き合いが減少。 ・若い世代の住民が減少（南町）。 ・空き家の増加。 ・田町に旧商店街の古い町並みが残っている。	☐ コミュニティの再生 ・若い世代をはじめとした新住民の受け入れ。	☐ 市街地の衰退の分析 ・市街地に住民が住まなくなった理由の分析。 ・駐車場が増えた理由の分析。 ☐ コミュニティの再生 ・古民家をリノベーションして、若い世代の入居・転入の促進。 ・南寺町・新町の統合。 ・麓町・南寺町の交流促進。 ・マンション居住者の共益費に区費を含める。
②力強い地域経済の再生 【生業再建】	☐ 人吉城址周辺の活性化 ・城址、人吉城歴史館の使い勝手が悪い。 ・人吉の歴史を市民・観光客が学ぶ場所が必要。	☐ 人吉城址周辺の活性化 ・城址公園、麓地区のイベント会場としての活用。 ・歴史資料館収蔵品の浸からない場所への移動・保存。	☐ 人吉城址周辺の活性化 ・歴史資料館をガイダンスセンターとして再利用。 ・歴史資料館の入場料無料化（市民のみ対象/歴史を知る機会の増加）。
③災害に負けないまちづくり 【避難対策】	☐ 安全な避難場所・避難ルートの確保 ・指定避難所の保健センターまでの道が狭く、胸川沿いに立地しているため危険。 ・胸川東側の地区は橋を渡るのが危険。東側で避難所の確保が必要。 ・新町町内会館が浸水した。今後避難所として利用できない。 ☐ 避難誘導体制の確保 ・発災状況の確認が遅れて逃げ遅れが発生。 ・町内会長だけが住民の避難誘導の役割を担うのは負担が大きい。 ・防災に関わる町内会長の業務引継ぎが不十分。 ・高齢者の逃げる手段、見守りの体制が十分でない。	☐ 安全な避難場所・避難ルートの確保 ・胸川西岸は第一中学校を避難所として利用するため、今後協定等を検討（将来的に新庁舎、医療センターや国の出先機関への垂直避難）。 ・胸川東側は相良神社、林鹿寺、東林寺を避難所として利用するため、今後協定等を検討。 ※避難ルートの拡幅等はない ・麓地区の公民館設置の検討（管理等が大変なので設置しない方向）。 ☐ 避難誘導体制の確保 ・町会長の負担を軽減・分散する必要がある。※町会長が被災者になる場合も想定。 ・町会長の引継ぎ時に、消防団が同席する等して防災の業務引継ぎを強化。 ・高齢者・要支援者の連絡網・マップの作成。 ・市の出前講座を活用した防災への認識・体制の強化。	☐ 安全な避難場所・避難ルートの確保・確認 ・【胸川西岸】第一中学校を利用。医療センターや国の出先機関との垂直避難の協定締結。 ・【胸川東側】相良神社、林鹿寺、東林寺の自主避難所として協定締結。 ※林鹿寺は麓町・田町の自主避難所に指定済み ・寺社の避難所利用に関わる協定締結に向けた市の支援。 ・駐車場の整備・確保。 ☐ 地域性を踏まえた防災マップの作成 ・防災まち歩きによる、危険個所の確認。及び各町内の詳細な防災マップの作成。
	☐ 町内の共助の確保 ・過去も浸水した記録がないので、自主防災組織を立ち上げていない。 ・災害発生時、世帯で電気・水道の有無が分かれた。	☐ 町内の共助の確保 ・隣接する町内会と共同で自主防災組織の立ち上げ、及び活動の充実。 ・町内住民の互助体制の構築。	☐ 防災意識の醸成、体制の強化 ・自主防災組織の立ち上げ、地区防災計画の策定（役割の分散化 他） ・実践的な避難訓練の実施。 ・災害時の女性部の活動強化。 ・災害時の住民間の支援体制の構築。
	☐ 早期の避難情報の発信 ・避難情報が聞き取り難い。	☐ 早期の避難情報の発信 ・携帯電話/エリアメールを使った早期避難情報の発信。 ・行政・消防による「空振り覚悟」の避難情報の発信。	☐ 情報発信機能の強化 ・各世帯への戸別受信機の配布（市より、6月から順次配布）。 ・支流（胸川 他）の出水状況をきめ細かく情報提供する機能の強化。
【治水・土砂災害対策】 【復興まちづくり】	☐ 本川と支川の合流部の氾濫 ・胸川から本川に流れ込みづらい。バックウォーターの発生。	☐ 流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下	☐ 流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下 ・流水型ダム整備、市房ダム再開発、河道掘削、遊水地整備等。